

春の全道火災予防運動が始まります！

4月20日から4月30日までの11日間「春の全道火災予防運動」を実施します。この運動は、住民の皆さまに防火意識を高めていただくことにより、火災の発生を防ぎ、万が一発生した場合にも被害を最小限にとどめ、火災から尊い命と貴重な財産を守ることを目的としています。

占冠支署では、期間中における火災予防広報、防火対象物立入検査、住宅用火災警報器（住警器）の設置状況調査を行う予定です。

住警器の設置状況調査は4月下旬頃に実施予定であり、行政区回覧で概要をお伝えしますが、該当となる世帯の皆さまはご協力をよろしくお願いいたします。

救急出場状況 (2月分)

自然災害	1件(1人)
交通事故	1件(0人)
労働災害	1件(1人)
一般負傷	18件(15人)
急病	18件(16人)

2月計 39件(33人)
累計 72件(61人)
※()内は搬送人員



悪質な訪問販売にご注意を！

住警器の設置状況調査に便乗し、ご家庭へ訪問して消防用設備（住警器、消火器等）の販売や取り付けを行い、高額な代金を請求する悪質販売が発生しています。

事例1

一人暮らしの高齢女性宅に市の職員を名乗る男が訪れ、住警器を2台設置。7万9千円を請求され支払った。契約書等の取り交わしはないため、業者も特定できずクーリング・オフもできなかった。

事例2

一人暮らしの高齢女性宅に人材センター職員を名乗る男から、「今から住警器を取り付けに行く」と電話があった。その後、男が女性宅を訪れ住警器を数台設置。10万円を請求され支払った。

- ① 住宅用火災警報器は1台数千円で取り付けできます。
- ② しつこい勧誘はきっぱり断りましょう。
- ③ 万が一契約しても契約解除できる場合もありますので、お近くの消費生活センターにご相談を。

野生動物対策の状況

農林課林業振興室
野生鳥獣専門員
56 - 2174

過ぎし令和6年度、国内社会は鳥獣保護管理法や銃刀法の改正に揺れ、また第2期ヒグマ管理計画の改訂など大きな動きが相次ぎました。本村にあっては猟区の更新事務あり、初のヒグマ対応訓練あり、処理加工施設の修繕ありと、とにかく忙しい1年でした。一方で野生動物に対しては、初夏の上トマムでヒグマとひと悶着あったほかはおおむね静かであり、シカには依然として地道な捕獲に徹するのみ、アライグマは頼みの酪農大生の手が足りず捕獲不振と、総じて状況のままに停滞、後退を許してしまった感があります。そのような中でも、皆さまのご協力のおかげで大きなトラブル等もありませんでした。深く感謝申し上げます。

続く本年度は、欲張りすぎて疲労気味の野生鳥獣関連業務を立て直しつつ、ヒグマの地域管理計画、リゾートや学校との連携、シカの域内流通など新たな取り組みも進めてまいりたいと思います。野生鳥獣



ヒグマの足跡
3月9日 双珠別林道

専門員は引き続き浦田が担いますが、新たにアシスタント職員（地域おこし協力隊員）1人を配置して、人材育成と体制強化を試みます。新職員については広報5月号で詳しく紹介する予定です。

本村の野生鳥獣対応の一翼を担う捕獲従事者の今期の編成は下記の通りです。新たに字中央の荒さん夫妻が加わりました。単にシカを捕るだけでなく2年ほどで戦力化を見込むところですが、本村では持続的な食肉生産や猟区対応、ヒグマ対応も見据え、技術的にも倫理的にも高い要求のもと、丁寧に錬成を重ね、全隊の資質向上を図りたいと思います。

高橋勝美さん 小尾雅彦さん
鈴木雅士さん 黒井宏諭さん
中島辰男さん 有光良次さん
阿部貴裕さん 横出純治さん
橋本陽さん 佐々木孝史さん
高橋武志さん 遠藤守さん
浦田剛(担当)



力を合わせて頑張ります！

荒映子さん 荒哲平さん



地域とともに

コミュニティ・スクール情報
～占冠中央小学校～

教育委員会学校教育担当 56 - 2182

第113回卒業証書授与式

3月21日、本校の第113回卒業証書授与式を挙行し、在校生、保護者、教職員、ご来賓の皆さまに温かく見守られながら、卒業生2人が立派に巣立っていきました。式では、6年生にお世話になったことや楽しかったことを大きな声で呼びかけながら伝える在校生と、6年間の思い出や自分の成長を立派に述べて感謝の気持ちを表す卒業生の姿が見られ、とても温かく感動的な内容となりました。

4月7日には、新入学生4人を新たに加え新しい占冠中央小が出発します。子どもたちが1年後、それぞれ成長した姿を見せられるよう教職員一同全力で指導支援していきます。保護者や地域の皆さまのさらなるご支援ご協力をお願いいたします。



村民スキー大会（記録会）

3月2日、村民スキー大会が実施され、本校児童全員が参加しました。種目は、速さを競うタイムレースと1本目の自分の記録に近づける設定タイムレースの2種目でした。子どもたちは、学校のスキー授業を通して練習を積み重ね、一人一人目標をもって臨みました。当日は、上手に滑ることができて喜べた子、少し失敗して悔しい気持ちを持った子それぞれでしたが、全員が一生涯懸命頑張りました。

大会後の全校集会では、「悔しい気持ちを持つことは決して悪いことではない。悔しい気持ちは次に頑張ろうとする意欲につながり、自分を成長させる」という校長先生からの話に頷く子どもたちの姿が見られました。スキー学習を通して、スキーの技術だけでなく何事にも挑戦する子どもたちになってほしいと願っています。競技終了後には、村の方から豚汁をいただき、みんなでおいしく食べました。ありがとうございました。



こちら駐在所です

占冠駐在所
56 - 2110

山菜採りによる遭難の防止 ～ 目先の収穫よりも安全第一 ～

1. 行き先や帰宅予定時間を家族等に伝える！

行き先が分からないと、遭難したときに捜索範囲が絞れず、救助活動に時間がかかります。

2. 山奥に入らない！

山の中は多くの危険が潜んでいるので、慣れた山でも油断は禁物です。自分の体力や体調、天候や日没時間に合わせた行動をしましょう。

4. 目立つ色の服装を着用する！

山中で遭難した場合、ヘリコプターが上空から捜索しますが、その際は赤色や白色系の服装が目立ちます。



3. 単独入山を避ける！

山中で迷ったり、けがをした場合、1人では対処できないことがあるので、複数で行動し、絶えず声を掛け合ってお互いの位置を確認しましょう。

5. 携帯電話やホイッスルを携帯する！

携帯電話があれば、非常時に救助要請することができます。また、ホイッスルは体力消耗を抑えて、周囲に自分の存在を知らせることができます。